



とらいあんぐる



2016 年 11・12 月

一音会ミュージックスクール発行

「幼さを楽しむ」

子どもが幼い時代は、できることが
1つ増えるたび、喜びます。

ねがえりができたといっちは喜び、
ハイハイができたといっちは喜びます。

立ったといっちは写真におさめ、歩
いた時には、ビデオにとります。

こうしていくうちに、写真や動画は、
「できたこと」の記録でいっぱいにな
ります。

しかし、子どもが大きくなり、幼い
日が遠くなるにつれ、むしろ「できな
かったこと」がいとおしくなります。

幼い日の記録を見返しては、「ああ、
こんなに小さかったんだ」と、「小さか
ったこと」を確認します。そして、「こ
んなこともできなかつたんだ」、「こん
なに幼かつたんだ」と、「できないこと」
探しをします。

おもしろいものだなあと思います。

記録した当時は、「こんなこともでき
るようになった！」と、鼻の穴をふく
らませて記録していたのです。それが、
十数年たって、同じ記録を「こんなに
小さかつたんだ」と、できなかつたこ
とを見つけて、幸福感をおぼえます。

できなかつた記録も、もっととって

おけば良かったかもしれません。

いえ、できなかった記録こそ、とっておくべきでした。

記録にとろうとしなかっただけで、何かができなくてかんしゃくをおこしていたこと、つまらないことでワーワー泣いていたこと、そんな場面は、日常的にたくさんあったのです。

あまりにも、“日常”でした。

そんな場面を、もっともっと記録しておけば良かったと、今になって少し後悔しています。

私はつい最近、着物を着たかわいらしい小さな女の子と、手をひく幸せそうなお両親を、町で見かけました。

七五三のシーズンです。女の子は、3歳なのでしょう。



私は家に帰って、キョウコの七五三の時の写真を出してみることにしました。現在、キョウコは17歳ですので、14年も前の写真になります。

そのとたん、封印された箱が突然、開けられたように、いろいろな思い出があふれ出します。

当時のキョウコは、年齢以上に幼い子どもでした。同年齢の子どもができる、あらゆることができない人でした。

写真館で写真をとる時も、こわがって泣いてしまい、たいへんでした。話して分かる人ではありません。まさに大暴れでした。

ですが、写真屋さんは、さすがプロでした。長い長い時間をかけ、キョウコの気持ちが落ち着くのを待ってくださいました。そればかりか、写真屋さんのご主人は、おどけて、おもしろい顔やポーズを見せ、笑わせようとつとめてくださいました。写真屋さんの奥様は、ビスケットやぬいぐるみを次々持ってきて、気を配ってくださいました。

その間、キョウコが暴れなくなったタイミングで、何度となくカメラの前にキョウコを立たせ、シャッターを切ってくださいました。

年配の写真屋さんが、汗だくになって奮闘してくださっている姿に、私はあまりにも申し訳なく、「もうこれでっこうですから・・・」と、何度かいました。そのたび、写真屋さんは、「まだダメ！ 親がガマンできなくてどうする！」と、叱ってくださいました。

数日後、数枚の候補写真を写真屋さんがくださいました。

キョウコが一人でカメラの前に立つことは、とうとうかなわず、すべて私にはりついている写真です。

その中から1枚を選び、ひきのばすのです。

数枚の候補写真の中に、偶然、キョウコが前を向いている写真がありました。記憶にはありませんので、おそらく身体の向きを変えた一瞬をとらえた写真だったのでしょう。

「これだ！」と私は思いました。こ

の1枚なら、おりこうに真正面を向いて、カメラにおさまったように見えます。

この1枚がとれたことに、心から感謝しました。選択の余地はないように思いました。

ところが、この時、母が強く反対したのです。

「こんなの、キョウちゃんらしくない。キョウちゃんは、こんな子じゃないでしょう？」

母がすすめた写真では、キョウコは横にいる私の方を向き、私の手をつかみ、泣き出しそうな顔で、こわごわ横目でカメラを見ていました。当日とった写真のほとんどが、そのポーズです。

私は、母の意見に不満でした。全部がそのポーズなら仕方ありませんが、奇跡的に前を向いている写真もあるのです。なぜわざわざこの写真を選ぼうとするのか、さっぱり分かりませんでした。

キョウコの身体が、完全に横を向いているために、洋服の胸のところの大

きなリボンも見えません。

「この洋服は、このリボンがかわいいのに！」

私が強く反論しても、母は動きません。

「洋服の写真じゃありません！」

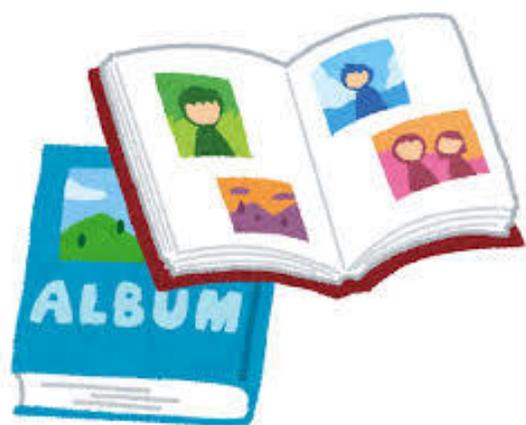
「泣きそうな顔をしているのは、ちょっと・・・」

「だって、実際、わんわん泣いてたんでしょ！」

「・・・」

母といいあいをして、私は勝てたことがありません。

釈然としない気持ちのまま、写真屋さんに、「これをひきのぼしてください」といいに行きました。



写真屋さんも変な顔をされるだろうなあと思っていたところ、奥様は顔をほころばせ、「まあ、まあ、これを選ばれたのですね！」と、とても嬉しそうです。写真屋さんのご主人も、わざわざスタジオの奥から出てきて、満足そうにならずいていらっしゃいます。

まだ納得がいかない私は、「これ、私の母が選んだのです」といいました。

写真屋さんご夫婦は、「私どもも、これが良いと思っていました」とまた、意外なことを、おっしゃいます。

まだ不審そうにしている私に、奥様がそっと耳打ちします。

「今に分かりますよ。あなたのお母様がこの写真を選ばれた理由」

写真屋さんご夫妻は、私の母と同年代でした。

今年、キョウコの七五三の写真を、10年以上ぶりに、ひっぱり出して見ました。

写真の中のキョウコは、私の思い出の中のキョウコと、ぴったり重なります。

写真を開いた瞬間、まるで、「カチリ」と音がしたかのようです。

だから、一目見ただけで、思い出の扉が開いてしまうのです。

いろいろな感情が、あとからあとからあふれ、私は一瞬にして感情の渦にのみこまれます。

こんなに幼かった。

ああ、こんなに幼かったんだ。

そんな日が、確かにあった！

なんて、いとおいしいのだろう！

なんて、かけがえのない日々だったのだろう！

気がつくと私は、泣いていました。

あの時代が遠くなってしまった今、母がその写真を選んだ理由が、ようやく分かります。

今、幼いお子さんを育てていらっしゃる方は、ぜひその幼さをかみしめ、楽しんでほしいと思うのです。

(江口 彩子)



2002年11月 「マリー写真館」さんにて

◆「音楽の集い」を開きました

11月3日（祝）に、「音楽の集い」を開きました。前日までの雨がウソのように、美しい秋晴れの空のもと、すてきな音楽会となりました。4時間近い長丁場でしたが、短い時間に感じられました。

お忙しい中、練習を重ねた成果を無事、発揮された方、思い出の曲を、心を込めて演奏して下さった方、それぞれが思い思いの音楽を表現してくださいました。おとなの方の演奏は、やっぱり深いものだなあと、感じ入った日でもありました。

来年も、11月3日（祝）に「音楽の集い」を開きます。他の行事は、曜日の関係で日が動きますが、「音楽の集い」だけは、固定です。どうか、来年もまたご予約をあけて、足をお運びください。

今年、はじめてご出演くださった方もいました。来年も、初出演の方がいらっしやれば、こんなに嬉しいことはありません。お待ちしております。

◆「ピアノ・トライ」にご参加ください

2017年1月より、「ピアノ・トライ」をおこないます。1年のはじめであり、年度をしめくくろうという時期でもあります。

この1年の進歩を確認し、これからさらなる成長へとつなげるための、大切な行事です。

ご参加くださる方の多くは、毎年、お申し込みくださっています。練習の指針を立てる一助になっているのであれば、幸いです。今年も、お一人でも多くの生徒さんに、ご参加いただきたいと思っています。

お申し込みいただける日は、12月7日（水）と12月10日（土）の2日です。先着の方を優先に、ご希望の時間帯に入ってください。たいへん勝手ながら、お電話のみで受け付けさせていただいております。一度に6本つながる回線で受けておりますが、時間によってはそれをこえる方がかけてくださることもあり、つながりにくいことがあるかもしれません。その場合は、申し訳ありませんが、おかけなおしてください。

くわしい要項については、先月号の「とらいあぐる」に載せましたので、ごらんください。

なお、「ル・コンセール」は、2月5日と2月12日の2回、予定しております。「ル・コンセール」とは、「ピアノ・トライ」ですてきな演奏をしてくださった生徒さんに、ご出演をお願いするコンサートです。

「ル・コンセール」の講師演奏は、以下のように予定しております。

2月5日 竹本侘愛先生 ピアノソロ演奏

ドビュッシー：喜びの島

2月12日 松山優香先生・谷口秀樹先生 2台ピアノ演奏

ベートーヴェン：交響曲第5番（2台ピアノ版）より第4楽章

◆「フォルテの会」を開きます

1月29日（日）に、「フォルテの会」を開きます（例年より、日程がはやくなっておりますので、ご注意ください）。場所は「ひびきホール」、入場は無料です。

「フォルテの会」は、ヴァイオリン、フルート、作曲、声楽などの副科と、「うたくらぶ」（合唱）の生徒さんたちの発表会です。

副科に興味をお持ちの生徒さん、ご家族の方には、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。「フォルテの会」についてのくわしいご案内は、追ってプリントをお配りするとともに、ポスターでもお知らせいたします。



◆アドヴァンスAコースの無料特別レッスン

来年に入りますと、次年度からのコースをお考えいただく時期になります。そのタイミングで、アドヴァンスAコースのレッスンを、1回に限り、どなたでも無料でお受けいただける制度をご用意する予定です。ここ数年おこなってまいりましたが、ご好評いただき、多くの方が、ご利用くださっています。

くわしいご案内は、次号の「とらいあんぐる」とともに、配布いたしますが、それに先立ちまして、いつも多くの方からおたずねいただく質問について、以下に簡単にお答えさせていただきます。

Q：「無料レッスンを受けたら、その先生にかわらなければ失礼になるのでは？」

→A：まったくそのようなことはありません。

Q：「何歳になったらアドヴァンスAでレッスンを受けられる？」

→A：ピアノを受けていらっしゃる生徒さんなら、どなたでも受けられます。未就学でアドヴァンスAの先生に習っていらっしゃる生徒さんは、実はたくさんいらっしゃいますし、絵音符の指導ができるAの先生もいます。

Q：「すでにAの先生のレッスンを受けている場合は、利用できない？」

→A：他のAの先生の無料レッスンを受けることができます。

Q：「2回、受けたい場合は？」

→A：2回目以降は、フリーチケット扱い（有料）になりますが、お受けいただけます。何人もの先生のレッスンを受けて、一番あう先生を探す生徒さんも、いらっしゃいます。

Q：「受けてみたいが、どの先生で受けたら良いか分からない」

→A：ぜひ本部にご相談ください（03—5966—7711・担当：伊藤・矢島）。年齢や進度、先生に対する要望などをうかがって、アドバイスさせていただきます。

◆クリスチャン・トカチェフスキ先生がレッスンをします

「ポーランドの巨匠」と呼ばれる、クリスチャン・トカチェフスキ先生が来日されています。

特別に、一音会でもレッスンをしていただけることになりました。レッスンをご希望の方は、一音会本部まで、お問い合わせください。英語でのレッスンになりますが、通訳者はこちらで手配できます。場所は、「ヘンデルはうす」です。

クリスチャン・トカチェフスキ先生のプロフィールは、下記の通りです。

Krystian Tkaczewski

若くして「ポーランドのピアノの巨匠」と称されるクリスチャン・トカチェフスキは、1980年ポーランドのタルノフで生まれ、この地にあるパデレフスキ音楽学校で学んだ。その後、ワルシャワのショパン音楽アカデミー、プロツワフ音楽アカデミーを経てハートフォード大学ハート・スクールでオクサナ・ヤブロンスカヤに師事し、博士号を取得している。トカチェフスキはアメリカ、アジア、ヨーロッパで精力的な演奏活動を行っており、2007年4月のニューヨーク、カーネギーホールへのデビューは衝撃的なものとなり、メディアにも大きく取り上げられた。



これまでにヨーロッパ・ピアノ・コンクール（イタリア）、アテネ、マドリッド、ニューヨークなど、数々の国際音楽コンクールに入賞している。ショパン・フェスティバルを中心に多くの音楽祭に招待され、20ヶ国以上で演奏活動を行なう一方、ポーランド国立放送交響楽団、プロツワフ・フィルハーモニー交響楽団を始めとする多くのオーケストラとも共演している。

また、アメリカ、ロシア、オーストリア、イタリアなど各国の国際音楽コンクールで審査員として活躍している。現在、ポーランド音楽家協会 SPAM のメンバーであり、アメリカ・ハートフォードでのショパン国際音楽コンクール審査委員長、コネチカット・ショパン協会の会長もつとめる。

◆風邪の季節になりました

寒くなりました。すでに、インフルエンザが流行しはじめています。スタッフも、体調管理に、最大の注意を払うとともに、生徒さんの間で感染がおこらないよう、気を配っています。

生徒さんにも、レッスンの前後に手を洗うなど、予防につとめていただきたいと思います。咳やくしゃみが出る場合は、マスクをご着用ください。教室でも使い捨てマスクをご用意していますので、受付でおっしゃってください。

元気に冬を乗り切れますよう、ご協力を、よろしくお願いいたします。

◆卒業生が活躍しています

3歳から一音会に通ってくださった、一音会の卒業生、引地誠さんが、「第85回日本音楽コンクール」作曲部門で、第3位に輝きました。

受賞を受けて、以下のテレビ番組に出演されるそうです。ぜひご覧ください。

「若き音楽家の挑戦」ドキュメンタリー放送

(NHK Eテレ) 12月10日(土) 午後3:00~4:00

「クラシック倶楽部」

(NHK-BSプレミアム) 12月13日(火) 午前5:00~5:55

引地 誠 (ひきち まこと) さん

2013年 東京芸術大学作曲科卒業

2015年 東京芸術大学大学院修士課程卒業

受賞歴多数

東京芸術大学安宅賞

アカンサス音楽賞

第82回全日本音楽コンクール作曲部門入賞

トロンボーン・ピース・オブ・ザ・イヤー作曲賞第1位

第32回現音作曲新人賞および聴衆賞 他略



◆1年間、ありがとうございました

今年も、生徒さん、ご家族の皆さまの、惜しみないご協力とご理解をいただき、無事、1年を終えることができます。1年間、本当にありがとうございました。

新しい年が、皆さまにとって、素晴らしい年になりますことを、願ってやみません。

冬休み中、一音会本部は12月25日(日)より1月6日(金)まで、お休みをいただきます。勝手ながら、その間は、電話でのご相談もお休みさせていただきますこと、どうかご了承ください。



スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。

2016 年のあゆみ

- 1月7日 2016年 レッスン開始日
- 1月10日・11日・16日・17日・23日・31日
ピアノ・トライ 於 バッハはうす
- 1月24日 第56回「ル・コンセール」 於 ひびきホール
- 2月7日 第57回「ル・コンセール」 於 ひびきホール
- 2月11日 第17回「フォルテの会」 於 ひびきホール
- 4月7日～ 2016年度レッスンスタート
- 5月7日・8日・9日
プリドノフ先生ご夫妻 レッスン 於 ヘンデルはうす
- 5月14日 プリドノフ先生ご夫妻 コンサート 於 ひびきホール
- 5月15日 第11回「ジュニアコンサート・オーディション」
於 ひびきホール
- 6月3日 第11回「ジュニアコンサート」 於 ゆめりあホール
- 7月9日～19日 リハーサルトライ 於 ヘンデルはうす
- 7月28日～31日 2016 ピアノ発表会
於 かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール
- 11月3日 第18回「音楽の集い」 於 ひびきホール
- 12月22日 2016年 レッスン最終日

